

■ Special articles

中小病院との協同ラウンド

第1回感染制御実践看護学講座（6ヵ月研修）2010

協同ラウンド等に関する受講生19名の意見/感想

2010年8月28日—2011年3月5日

小林寛伊

東京医療保健大学大学院

Collaborating Ward Liaison for Infection Prevention and Control in Smaller Hospital

Hiroyoshi Kobayashi

Division of Infection Prevention and Control, Postgraduate School, Tokyo Healthcare University

平成22年3月に基本診療の施設基準等の一部改正が行われ、5年以上感染管理に従事した経験を有し感染管理に係る適切な研修を修了した専任の看護師等からなる感染防止対策チームを組織して、感染防止に係る日常業務を行うなどの要件を満たしている場合には、感染防止対策加算(100点)が算定できることになった。

東京医療保健大学大学院医療保健学研究科では、この感染管理に係る専従・専任の看護師の養成基準による「感染制御実践看護学講座（6ヵ月研修）」を開講し、修了認定証を授与する「感染制御実践看護学講座（6ヵ月研修）」を開講した。なお、各位からの強い要望があり、単に資格取得の為のみならず、広く感染制御実践能力の向上を目指す教育カリキュラムとして活用することも可能とした。

「感染制御実践看護学講座（6ヵ月研修）」は、感染制御実践看護師育成を目的とし、現在勤務している自施設の業務を継続しながら受講できる教育カリキュラム（週末講義、集中講義、指定施設実習、自施設実習、課題演習など）を編成し、本学の大学院医療保健学研究科の感染制御学専門課程の教育スタッフを中心に、日本の感染制御学を開発してきた第一人者（医師、看護師）を網羅して教育を行ってきた。

指定施設実習は、本講座で指定する実習施設において1週間20時間の実習を行い、自施設実習は指定施設実習での経験をもとに、自施設の日常活動を重視した課題学習等が中心の実習として、10週間200時間の実習として実践してきた。自施設実習初期に1回、本学の教育スタッフが各施設に出向いてのラウンドをおこなって関係者と討論し、それ以後は当該施設のインフェクション・コントロール・ドクター（ICD）の指導のもとに現有組織を活用し、感染制御の水準向上を図る教育、多職種専門家とのコラボレーション教育等をe-mailによっておこない、効果を上げた。この自施設実習における課題演習では、本学の社会人対象大学院（業務を継続しながらの大学院教育）における豊富な経験を生かし、電子媒体等を活用した教育実績に基づいた効果的な指導を行ってきた。

ここに、今回採用したカリキュラムは、受講生各自中小施設における、病院長、看護部長はじめ、病院上層部の多様な理解と指導とが基本にあって初めて達成できたものであり、それに加えて、受講生の前向きな努力が成果に結びついたものと確信する。今後の感染制御の質向上を目指す教育に資するために、受講生の忌憚のない意見をここに紹介する。

なお、この内容は、厚生労働科学研究費補助金 地域医療基盤開発推進研究事業 「医療現場における安全性（感染制御策）の質向上をはかるための総合的研究」平成21年度～22年度 総合研究報告書に報告したものである。

001

1. 指定施設実習

1-1. 得られたこと

- ① 実際の介入の方法や仕事の流れなどが学べた。
- ② 現場に出向き人間関係を構築しつつ助言・指導を行うこと。
- ③ 感染管理を行う上で、行動しやすい組織作りの重要性。

1-2. これからの自分への課題

- ① ICTのチームとしての役割と時間の確保。
- ② 各部署のリンクナースの教育とサポート体制づくり。
- ③ 全職員への教育。(感染対策講習会の参加率向上)

1-3. 指定施設実習に望むこと、改善すべきこと

- ① 実習期間が短く、もう少し長く実習できればと思いました。
- ② 自施設の状況をよく知り、準備をしてから実習を行えば、より良い実習につながったのではないかと思います。

2. 自施設実習

2-1. 得られたこと

- ① 感染対策チームが機能していないことが、明らかになり改善されつつある。
- ② 感染対策上、看護師が担う役割が重要であること。
- ③ 病棟間での取り組みが情報として明らかにされ、感染対策の意識の向上につながっています。

2-2. これからの自分への課題

- ① 職員との関係を良好に保つ。
- ② 強い意志を持ち続ける。
- ③ 感染対策を通して、感染対策チームを横断的な組織にして病院の質を上げる。

2-3. 自施設実習に望むこと、改善すべきこと

- ① 実習時間の確保が難しく、実際の業務との区別。
- ② 相談できる担当医師の確保。

3. 感染制御実践看護学講座（6ヶ月研修）について

3-1. 良かったこと

- ① 全国の様々な経歴の看護師と交流がもてました。
- ② 実習先が県内であり、今後の活動するうえで相談などができる環境を得ました。
- ③ 講師の先生方から、最新の情報や専門の情報などを得ながら、課題のインターネットから最新の情報をレポートすることにより、様々な情報に興味を持てるようになった。
- ④ 指定施設実習先でも熱心に指導いただき、指導・教育の実際を学びました。

3-2. 今後の課題

- ① 遠方からの受講生には、毎週の講義は時間・経費の面で苦労がある。
- ② 自施設のような小規模の施設が本講座に参加できる環境整備。
- ③ 初歩的で、自施設の問題ではあります感染対策以前の、整理・整頓などの5Sの講義があればとおもいました。

3-3. 改善すべきこと

- ① カリキュラムの順序が基礎から始まれば、より理解しやすいと思います。
- ② 講義終了後に実習があれば、よりスムーズに実習に入れたのではないかと思います。

002

1. 指定施設実習

1-1. 得られたこと

- ① 感染対策を行うために必要な他職種との関わりの重要性
- ② 継続的な教育の重要性
- ③ 自己研鑽

1-2. これからの自分への課題

- ① 自施設における他職種との人間関係作り
- ② 自施設の改善すべき問題の具体化と計画的な実施と評価
- ③ 研修終了後の院内外研修への参加や積極的な情報収集

1-3. 指定施設実習に望むこと、改善すべきこと

- ① 自施設の状況を把握していないと五日間が有意義に過ごせない
- ② 講義終了後の実習
- ③ 指定施設実習期間の実習計画を立てるのに施設についても分からないし、自分の希望を言って良いものか悩んだ

2. 自施設実習

2-1. 得られたこと

- ① 小林学長の来院により自施設での自分の役割を全職員に知ってもらえ、感染対策が重要なことだという意識を持ってくれる人が増えた
- ② ICDのもと ICTメンバーとの活動の成果
- ③ 同じ研修生との情報交換により、お互いに悩みを共有できる場所ができた

2-2. これからの自分への課題

- ① 自施設の感染制御に努めること
- ② 他施設との情報交換や連携
- ③ 自己研鑽

2-3. 自施設実習に望むこと、改善すべきこと

- ① 研修生同士がお互いの施設見学を行う
- ② 人によっては、感染に従事する時間が短いので大変だったと思う
- ③ 自施設実習とは、どのようなものなのか理解し辛い

3. 感染制御実践看護学講座（6ヶ月研修）について

3-1. 良かったこと

- ① 研修生同士でお互いに悩みを相談できたこと
- ② 自施設での改善困難な問題についてメールや講義で質問できた
素晴らしい講師の先生方に出会えたこと

3-2. 今後の課題

- ① 講義の中で（洗浄／消毒／滅菌など）、基本的な事が先にくる方がわかりやすい
- ② 講義の中で、実演指導があると余計に分かりやすい

- ③ グループワークを行う講義は事前に知っていれば時間短縮になる

3-3. 改善すべきこと

- ① 課題内容が理解しにくかった
- ② 課題内容についてのお知らせが直前であった
- ③ 課題が予定より、増え続けるので困った

003

1. 指定施設実習

1-1. 得られたこと

- ① 他施設の感染管理を見学、説明を受け学ぶことができた。
- ② 7つの課題項目に沿って学習することができ、短い期間ではあったが、ポイントを絞って学ぶことができた。
- ③ 自施設の感染管理と比較することができ、また、新たに気付かされることもあり、自施設で活用したいと思うことが多い実習であった。

1-2. これからの自分への課題

- ① 指定施設実習で学んだことを、如何に自分なりの方法で、自施設に即した形で役立てることができるのか、整理して考えたい。
- ② 今後、感染制御チームの一員として、どのように活動すればよいのか、指定施設実習でのチームワークを振り返り役立てたい。

1-3. 指定施設実習に望むこと、改善すべきこと

- ① 実習期間が5日間では短い。ポイントを絞って実習に臨んだが、やはり見学が中心となってしまった。
- ② 実習の時期も、講義の進行状況などと合わせ、調整が必要と思われる。

2. 自施設実習

2-1. 得られたこと

- ① 専従となって、何をしてもよいのか分からず、また学ぶ手段もなかった。自施設実習は、その方向性を見つけてくれたと思う。この講座を利用して、自施設実習を行なうことで、自分の活動できる場が見えてきた。
- ② 指定施設実習で他施設の感染管理を学ぶことで、自施設でやるべきことが分かり始めた。

2-2. これからの自分への課題

- ① 自施設で行なうべきことが、講義、及び指定施設実習を通して見えてきたので、内容を整理して取り組んでいきたい。
- ② 何かを始めようとした時に、周囲を説得し、賛同、協力を得ることが本当に難しく、なかなか始めることができない。また、交渉にも時間が掛かるものだと感じた。どのようにして進めていくべきか、今後の課題である。

2-3. 自施設実習に望むこと、改善すべきこと

- ① 私の場合、自分の希望で研修に参加しているので、実習に関しては、現場での協力が得にくい。実習とはいえ、感染制御において、病院各部署へ大きな影響を与える内容のものなので、もう少し病院側への協力依頼が明確であるとありがたいと思う。

3. 感染制御実践看護学講座（6ヶ月研修）について

3-1. 良かったこと

- ① とにかく著名な先生方の講義を受けることができ、とても刺激になった。感染管理の奥深さを感じることもできた。理想だけでなく、現実に即した内容を沢山盛り込んで頂き、高いレベルの感染制御を、現場で活かせるものとして役立てることができる。

3-2 今後の課題

- ① 講師の先生や、受講生の人達と、多くの仲間ができた。今後、仕事をしていく上で、大切なネットワークができたと思う。
- ② 当講座の初年度であったためか、研修を行ないながら内容を組み立てていく感じであったので、次年度へ役立ててほしい。

3-3. 改善すべきこと

2-3 と同様

004

1. 指定施設実習

1-1. 得られたこと

- ① 各職種それぞれが役割意識を持ち、病院全体で感染制御に取り組んでいる。
- ② 感染制御に関するスタッフ教育が各レベルに応じて行われている。
- ③ 感染制御に十分な予算がある。

1-2. これからの自分への課題

- ① 全職種が関われる感染制御の組織づくり。
- ② 感染制御のラダー教育の構築。
- ③ 看護師としての主体性のある活動。

1-3. 指定施設実習に望むこと、改善すべきこと

- ① 5日間の実習では施設の概要しか掴めず、期間が短い。

2. 自施設実習

2-1. 得られたこと

- ① 今までのリンクナースとしての部署内に限られた活動が、組織を横断する活動となった。
- ② サーベイランスを行うための手法が、実践をもとに学べた。
- ③ エビデンスをもとにした活動により、コンサルテーションなどスタッフからの信頼が大きくなった。

2-2. これからの自分への課題

- ① 介入がもたらした結果を、定量評価できる手法を身につける。
- ② 最新情報の収集を継続して行っていく。
- ③ 統計や教育など感染制御に関連する他分野の知識を学ぶ。

2-3. 自施設実習に望むこと、改善すべきこと

- ① 自施設には現任の感染認定看護師がいるため、私自身は研修生の扱いにより、システムの変更などのダイナミクスな活動や、スタッフへの強制力のある活動は制限されていたため、成果を出して定量評価をおこなうのは難しいです。

3. 感染制御実践看護学講座（6ヶ月研修）について

3-1. 良かったこと

- ① 国内における第一人者の講師陣のもとに、学ぶことができた。

- ② 自施設実習により、知識だけでなくスキルを身につけることができた。
- ③ 休職せずに学ぶことができ、課題の達成が組織への成果になった。

3-2 今後の課題

- ① この講座の卒業生として、どれだけ社会に認知されていくかは私たち次第ですが、個人としての活動だけでなく卒業生のコミュニティとしての活動も行い、その存在を示していきたい。

3-3. 改善すべきこと

- ① 実習成果報告の準備に追われてしまい、修了試験までの期間が短く不安です。

005

1. 指定施設実習

1-1. 得られたこと

- ① ICT 活動の年間計画と活動内容の把握、目標管理の具体的方法について
- ② ICT 活動、看護部以外の職場での ICN としての関わり方について
- ③ 病院の建て替え時や、施設として感染制御に必要な環境を整備していくための関わり

1-2. これからの自分への課題

- ① ICT を機能させるためのリーダーシップ
- ② 自施設の組織を理解し、施設に合った感染制御対策の構築
- ③ サーベイランス・環境ラウンドを継続していき、必要な内容に厳選すること

1-3. 指定施設実習に望むこと、改善すべきこと

- ① ICT 活動やラウンドを見学できる時間がもっとあればよい
- ② 指定施設実習は認定看護師の ICN としての活動についての講義が終わってから行ったほうが効果的である

2. 自施設実習

2-1. 得られたこと

- ① 介入項目法を実際に行うこと、小林先生のラウンドによりポイントが理解できた
- ② ケアバンドルを提示してもらうことで自施設での不足点について明確化できた
- ③ 介入したことについて小林先生からアドバイスをもらうことで自身の活動についての評価ができた

2-2. これからの自分への課題

- ① 課題を継続して行っていくこと
- ② 全職員、委託業者への感染制御教育についての関り方
- ③ 行ったことの無い SSI サーベイランスの開始

2-3. 自施設実習に望むこと、改善すべきこと

- ① 毎週のインターネットによる最新情報の検索に一番時間を要した。ラウンドや介入に実習時間は使ったほうがいいので課題は1つ/週にしたほうがいいと思う。

3. 感染制御実践看護学講座（6ヶ月研修）について

3-1. 良かったこと

- ① 著名な先生方の豊富な知識と最新情報がきけること
- ② 認定看護師の先生方がきめ細かく相談に乗ってくれること
- ③ コンサルテーションの講義が充実していたこと

3-2 今後の課題

- ① モチベーション高く、今行っている実習内容を継続していくこと
- ② 自施設に合った感染制御策を構築し活動を維持していくこと
- ③ 看護師以外の職種に行う感染制御教育

3-3. 改善すべきこと

- ① デバイスサーベイランスを行ったことがないスタッフが多いので計画書などを作成するところから講義があるとよかったのではないかと思う
- ② 内容的に重複している講義があったので、医師だけではなく看護師の立場での講義がもう少しあるとよかったのではないかと思う。
- ③ 講義の順番によっては最初にしてもらわないと後の講義内容が理解できないことがあったため、講義の順番を考慮してもらえるとよいと思う。

006

1. 指定施設実習

1-1. 得られたこと

- ① 自施設の問題点を明確にすることができた。
指定実習に向け、自施設の問題点を出していたが、実習にて問題点がより明確になり、解決策への足掛かりになることを多く学ばせて頂いた。実習先で実際の活動方法を見学させていただき、考え方を聞かせていただいた事は今後活動していく上で大きな力となった。
- ② 基本の徹底の大切さを学ぶことができた。
環境ラウンドにて感染の基礎である5S（整理・整頓・清潔・清掃・しつけ）の徹底の大切さをあらためて知らされた。また、自分の中ではあまり認識のなかった物品管理の徹底は、感染制御をしていく上で必要なコスト意識を持つことへの大切な動機づけとなった。
感染防止の基本である手指衛生・標準予防策の徹底を目の当たりに見せて頂き、継続するための教育に大切さ、モチベーションの保ち方を学ぶことができた。
- ③ 感染制御は一人ではできない。
感染制御において最も重要なことは、全職員がいかに早く正確な情報を共有し行動するかということにある。それには周りを巻き込み感染制御の協力者作っていくことである。全職員が一丸となって取り組むことができれば大きな力になる。常に現場に足を運びコミュニケーションをとり情報収集・提供し問題の早期発見をすることの大切さを学んだ。

1-2. これからの自分への課題

- ① 感染から病院に関わりすべての人を守るという思いを持ち、日常の感染対策を実践できる組織となるように、ICT・リンクナースメンバーとともに立て直していく。
- ② 常にコスト意識を持ち、無駄を省き、削減した予算を現場が働きやすい環境を作っていくことに充てるなど工夫していく。
- ③ 感染制御は一人ではできない。全職員一丸となって取り組むことは大きな力となることを見せて頂いたことは大きな励みでもあり、目標になっている。現場を大切に常に足を運び情報収集・提供しコミュニケーションをとる。

1-3. 指定施設実習に望むこと、改善すべきこと

- ① 実習期間が短く実習項目が多く、見学だけで終わってしまった感がある。少し理解できかけてきたところで終わってしまったので、深めるところまでいかなかった。受け入れていただく病院の負担もあるが、2週間程度の実習期間であればよかったかと思う。
- ② 受け入れ先病院の、頭が下がるほどの入念な準備体制はとても有難かった。

また、実習記録用紙があったのは、実習項目が整理されよかったと思う。できればもう少し早い段階で記録用紙をいただければ、自施設の課題・対策を考えて臨むことができたのではないかと思う。

- ③ 実習人数 3 名程度はグループとしてもまとまりやすく、一緒に実習することで良い関係もできた。今後の力強い同志である。

2. 自施設実習

2-1. 得られたこと

- ① 施設の全体を見ることができた。

実習にて、院内の看護部以外の部署の方と話すことも多かった。病院内清掃がどのようにされているのか、ゴミの処理はどのようにされているのか、ワクチンプログラムがどのようにになっているのか、空調はどのようにになっているのか、その他、長年勤めていても知らなかった多くのことを知った。また、誰にどのように話せば物事が進むのかということも理解できてきた。

- ② 自施設の課題点がより明確に、具体的となった。

まだ、課題のほんの一部だろうが、指定実習で明確になってきた当院の課題点が、自施設実習でラウンドして回ることでより具体的になった。具体的になったことでどう改善策を立てればよいかということが見えてきた。現在、現場の協力にて少しずつ改善できるところから実践している。

- ③ 病院全体が感染制御に目が向いてきた。

自施設実習開始時に小林学長に当院にてラウンドして頂いたことで、病院内に研修中であることが理解していただけた。このことは、活動していく上でとても動きやすくコメディカルの部署でも協力が得やすかった。このつながりは今後の大きな力になってくれるものなので大切にしていきたい。

2-2. これからの自分への課題

- ① 引き続きできるだけラウンドし、現場職員とコミュニケーションをとり、病院全体が感染に向けた眼をそらさず、より興味を持ってもらえるようにし、協力者を増やしていく。
- ② 当院のまだ一部であろう、明確になってきた課題点を戦略を立てながらできることから解決していく。
- ③ 常に患者中心に考え、感染・安全・倫理・看護の面から考え行動していけるように、また、看護職全体の質を上げていけるように、自己研鑽していく。

2-3. 自施設実習に望むこと、改善すべきこと

- ① 業務をしながら実習時間を確保するのは困難だった。職場にいれば周囲からは実習だということは分かりにくく、病棟内の業務が入ってくる。どちらもが中途半端になることもあった。実習時間をまとめるのが良いのか、現行通りが良いのかどちらとも言いがたいのだが、実習中であることが管理にきちんと認識していただけたら有難い。(スケジュール表は提出しているのだが)
- ② 医師が少なく多忙な状況下で、毎週 ICD の指導を受けるのは困難をきわめた。
- ③ 祭日・夜勤等が入れば実習できないため、時間外に時間確保し、実習することもあった。毎週月曜日の実習記録提出は、900 分毎でもよかったかと思う。

3. 感染制御実践看護学講座（6ヶ月研修）について

3-1. 良かったこと

- ① 最先端で活躍されている先生方に感染教育を受けることができ、講義を受けた先生方に今後も相談にのっていただけることは、とても大きな財産である。
- ② 一方的な授業方式だけではなく、自分で考える、考え方を学ぶ目的の講義は、常に考えながら行動する・・・
- ③ 今回の講座で仲間が全国にできたことは、活動していく上でとても心強いものである。

3-2 今後の課題

- ① 感染管理者として信念を持ち組織の中で認められる存在になること。そのために常に専門領域に関する最新情報の習得に心がける。
- ② 組織を横断的に活動する能力を身に付ける。
どの職種へもわかりやすいプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力、情報収集・整理・分析能力、理解しやすいように説明・説得できる能力を着けるよう学習する。
- ③ 常に公平である、曖昧な判断をしない、笑顔を感染させる。

3-3. 改善すべきこと

- ① 仕事をしながら講座を受けることは、想像以上に大変なものだった。特に、自施設実習が始まってからは実習時間確保と、前泊で学校に通うためほとんど休みがとれない状況下だった。講義をしていただく先生方のご都合もあるだろうが、集中講義形式のほうが時間的余裕が取れるような気もした。
- ② 講義内容の順番は、順序通りのほうが、理解しやすいと思った。

007

1. 指定施設実習

1-1. 得られたこと

- ① ICTの役割について今後どのように横断的に活動していけばよいか指標となるものを知ることができた。しかし、実習先と自施設の規模は違うため自施設に合うように取捨し生かしていかなければならない。
- ② 清掃業務がいかに大切であるかを理解することができた。清掃の状況によっては患者、家族に与える印象は明らかに違い、療養生活をおこなううえでの与える影響は大きい。病院の質が問われる指標になると感じた。
- ③ 病院側にリスクを理解させるためにどう伝えるかは、メリット、デメリットをきちんと把握し提示できるようにしなければならない。

1-2. これからの自分への課題

- ① ICTを感染制御にどのように生かしていくか組織作りからすることが重要であり、形だけではなく活気あるICT委員会の運営を行えるようにする。
- ② 短期目標、長期目標を設定し年間計画を基に活動しなければならない。そのためには、自施設の問題点の抽出を早急に行う
- ③ 感染制御対策のメリット、デメリットをきちんと提示できるような知識、情報を得られるように継続的な学習をする

1-3. 指定施設実習に望むこと、改善すべきこと

- ① 実習時間を増やし、自分で計画した対策など指導を受けながら実施し評価してもらうなど実践的な実習ができればいいのではないかと考える。

2. 自施設実習

2-1. 得られたこと

- ① 自施設をラウンドすることにより標準予防策の遵守率の低いこと、スタッフの感染に対する意識など自施設の現状が明らかにすることができた。
感染管理は一人ではできないものなので協力を得られるメンバーを少ない人数ではあるが得られたことは非常に心強い。用度課の主任や細菌検査室の技師など。
- ② ラウンドをすることによって病院全体の感染に対しての意識が向上していくことを感じられた。

2-2. これからの自分への課題

- ① 自施設における感染のベースラインの把握が必要と考え、サーベイランスを実施するに当たり医師との連携を図る。また、サーベイランスを誰がやるか、どのように実施するか明確にする。
 - ② ICT を実動部隊として活動していくに当たり、メンバーの選定をするためにそれぞれの役割を明確にしておく
 - ③ 標準予防策の必要性を理解し遵守率の向上をめざすための学習会などの計画立案。(対象、時期、内容など)
- 2-3. 自施設実習に望むこと、改善すべきこと
- ① ケアバンドルの介入実習が難しかった。ケアバンドルを使用するような症例に遭遇しなかったことなども上げられる。
 - ② 先生方による自施設への訪問指導の際、必要な資料などを明確にしていただけるとありがたい。今後このような資料の、このようなことに注意することなど指導があると活動しやすかったのではないかと考える。
3. 感染制御実践看護学講座（6ヶ月研修）について
- 3-1. 良かったこと
- ① 感染業務をしていて困ったこと、悩んだこと、少し愚痴りたいとき聞いてくれるたくさんの仲間ができたこと
 - ② 課題提出が厳しいこともあったが課題の一つ一つが今後の業務に必要なことであり自己研鑽の重要性を認識することができた。
 - ③ 講義や実習を通していろいろな ICN の方たちに出会うことができ、感染制御に取り組む姿勢を間近に見る機会を得られることができ今後の自分の方向性を考えることができた。
- 3-2 今後の課題
- ① 自施設実習のレポートだけでは、施設により差があり受講生のレベルも差が出ているのではないかと考える。
 - ② 実習先・指導者の選定
講座の意義を理解している施設は非常に講座の意図を捉えて指導していただいているようですが、それが理解されていないと、説明と見学だけで終わってしまうことがあるのではないかと。
- 3-3. 改善すべきこと
- ① 基礎知識がかなり必要なので、購入テキストを指定したほうがよい。
 - ② 状況設定問題形式のような課題があってもよいのではないかと。正解はないかもしれないが状況を設定されることで考えられる対策などを調べてレポートすることで実力が付くのではないかと。

008

1. 指定施設実習

1-1. 得られたこと

- ① 看護職以外の他職種との連携の重要性
各職種の知識を基に感染制御策を検討することで、より根拠に基づく対策を実施できる。
- ② すべての職員への積極的なコミュニケーション
自分自身から積極的に声をかけ、コミュニケーションを持つ。受け身にならない。
- ③ リンクナースを始め職員の教育の重要性
リンクナースの教育が充実し、各病棟で対策が実施されることが病院内の対策につながる。

1-2. これからの自分への課題

- ① 自分自身からの積極的なコミュニケーション
声をかけてもらうことを受け身で待っている傾向があるため、一歩前進し、自分からコミュニケーションを図る。
 - ② 現場を大切にし、足を運ぶ
感染症や、問題が発生した際は、まずは現場へ足を運び、問題全体を取り巻く状況を把握する。
 - ③ 専門知識の継続的な習得
分からないこと、疑問点、最新の情報を引き出せる方法を確立する
- 1-3. 指定施設実習に望むこと、改善すべきこと
- ① 実習期間の延長
一週間でなく、もう少し実習期間が長いと ICN の実施している活動が多く学べるのではないかな。
 - ② 実習時間の分割（前期・後期等）
自施設実習を始めてから実習に行くと、課題の解決策について学ぶなど、目的がより明確になり実習ができるのではないかな。
 - ③ 勤務時間外の業務見学
時間外で実施されている業務内容やコンサルテーションなどの見学ができるのではないかな。
2. 自施設実習
- 2-1. 得られたこと
- ① 今まで関わることのなかった職員とのコミュニケーションの実施
学校に通うまでは、話すことのなかった職員と関わるきっかけとなった。
 - ② 自施設の課題の抽出・改善策の検討
今まで見えていなかった自施設の課題が明確となった。実習期間に集中して自施設の課題の抽出に取り組むことができた。
 - ③ 学習内容との照らし合わせができたため早期に改善ができた
- 2-2. これからの自分への課題
- ① 実習期間に実施していたラウンドを継続的に実施し、積極的なコミュニケーションをとる
継続的に実施することが重要であり、自分自身を知ってもらう
 - ② 最新情報の収集を怠らず、日々努力すること
 - ③ 職員との信頼関係を構築し、感謝の気持ちと、謙虚な心を忘れない
感染制御対策は自分一人では出来ず、協力が不可欠である。
- 2-3. 自施設実習に望むこと、改善すべきこと
- ① 通常業務と実習時間の勤務時間の調整
勤務調整をして頂いた事はとても感謝しており、病院の協力なくしては実習ができなかった。今後このような研修があれば協力が臨まれる。
 - ② 授業が終了した時点での実習の開始
3. 感染制御実践看護学講座（6ヶ月研修）について
- 3-1. 良かったこと
- ① 素晴らしい先生方の下で学習することができた事
学長の自施設への訪問を始めとして、有名な先生方から貴重な授業をして頂き、多くのことを学ぶことができた。
 - ② 全国に同じ目標を持ち、今後も相談できる仲間ができた事

学校に入学し、出会うことができた事は授業や、実習中に心強く支えとなった。

- ③ 病院全体で、今回の受講を応援していただき、自施設の改善のきっかけとなった事
受講をきっかけとして、院内全体の ICT の活性化、対策の見直しができた

3-2 今後の課題

- ① 細菌培養など学校での実習の検討があると、具体的で理解しやすいのではないか
② 課題についての提出方法の統一
③ 指定施設実習と、自施設実習の日程の調整

3-3. 改善すべきこと

- ① 講義の時間割が、課題順であると理解しやすいのではないか
② 指定施設実習が選択できるとよいのではないか

009

1. 指定施設実習

1-1. 得られたこと

- ① ICC の機能と報告・指示系統・組織図を学んだ。構築された感染管理システムと組織図、周知方法を知った。又、ICC の年間活動計画を学び、自施設組織の問題点と改善のポイントを掴むことができた。
- ② ICT の機能と活動を学んだ。実践組織である ICT 会議の開催日時・構成メンバー・活動内容を知り、ICT 会議の実際（耐性菌監視・抗菌薬の適性使用監視・耐性菌検出時の対応・検出患者への対策・医師との良好な関係維持）を見学し、自施設導入方法を掴むことができた。
- ③ ラウンドの実際を体験することができた。ラウンドの実施日時・方法・内容を見学し、有効な介入方法と各部署のリンクナース・師長との情報の共有・連動が確認でき、実践組織の活動方法を掴むことができた。
- ④ ICU・手術部の特性を知り、感染制御対策を確認することができた。
- ⑤ ICN の活動状況を学んだ。ICN の活動の周知・患者情報の把握・対応・看護部の協力・医局との連携は不可欠である。ICN の質の高さが適正な協働につながることを再確認した。
- ⑥ サーベイランスの計画立案方法を ICN より学んだ。継続的多剤耐性菌サーベイランスの他、各サーベイランスと新規サーベイランス計画の導入方法を学んだ。
- ⑦ データ収集方法を ICN より学んだ。サーベイランスの記入・評価・分析・対策検討を行うと共に病棟で現状把握を行っていた。自施設におけるサーベイランス手順としたい。
- ⑧ ケースの判定方法を ICN から学んだ。ケースの判定方法・アウトブレイクの早期特定方法と対応・院内感染特定・ICN の介入方法を知った。
- ⑨ フィードバック方法を ICN から学んだ。現場責任者及びリンクナース等への連絡・周知を行い、現場との協働とモチベーションアップ方法を深めた。
病院感染対策マニュアルの内容の確認を行うことができた。マニュアルは実動レベルで活用しやすくフロー化され、多岐に渡り作成されていた。エビデンスの明記と、文献・ガイドラインの記載があった。使用しやすい明示方法や必要なマニュアル項目を確認することができた。
- ⑩ 標準予防策の遵守状況と必要性を ICN から学んだ。
手洗いのタイミングのマニュアル化と掲示方法・擦式アルコール製剤と PPE の適切な設置場所・周知の必要性を強く学んだ。
- ⑪ 隔離予防策の基本と報告義務について ICN とマニュアルから学んだ。
- ⑫ ワクチンプログラム管理の状況を ICN から学んだ。
- ⑬ 針刺し等、職業感染についての職員に対する注意喚起の方法と発生時の対応を ICN から学んだ。

- ⑭ 感染管理教育の方法を ICN より学んだ。新入職員教育・中途採用者教育・現任教育・リンクナース教育・院内研修について学び、中途採用者研修に参加し、実際に体験することができた。
- ⑮ コンサルテーションの対象者（全職員）と内容・結果・良好なコミュニケーション方法を ICN から学んだ。
- ⑯ 滅菌供給部門、機器管理部門等の施設見学によって特殊対策を学んだ。
清污導線区別、滅菌物のモニタリング・生物学的インジケータ使用による滅菌精度管理を学び、精度管理と確認の必要性を深く学んだ。
- ⑰ 環境整備の必要性を院内ラウンドから学んだ。清掃業者にまでおよぶ教育と、洗浄・消毒・乾燥・ゾーン化の意識付けの重要性を学んだ。
- ⑱ ファシリテイマネジメントを学んだ。空調管理と確認方法・設備設計・清掃様式を見学し、環境設定と職員の意識付けが急務であると学んだ。
- ⑲ ICN が自ら積極的に取り組むことの重要性を理解した。

1-2 これからの自分への課題

- ① 感染制御実践戦略の基本を捉える。
- ② サーベイランスの実践と分析を行い、適切にフィードバックを行う。
- ③ アウトブレイクの早期発見方法を掴み、実践に活かす。
耐性菌・抗菌薬の知識を吸収する。
- ④ 洗浄・消毒・滅菌の知識を得る。
- ⑤ 教育・指導・啓発の方法を学び、実践に活かす。
- ⑥ より良いコンサルテーションの為に、コミュニケーション能力を高める。

1-3. 指定施設実習に望むこと、改善すべきこと

- ① 自己の実習目標検討後の実習
- ② 実習期間の延長
- ③ 実際のサーベイランス体験

2. 自施設実習

2-1. 得られたこと

- ① スーパーバイザーからの感染制御における客観的指導による施設としての振り返り。
- ② 感染制御は組織力であることを知った。
- ③ 組織の再構築と役割の明確化の必要性を実感し、改善することができた。
- ④ ラウンドによる環境整備における自施設状況の把握ができた。
- ⑤ ケアー・バンドルを使用した評価方法の実践が行えた。
- ⑥ 具体的指導を重ねることにより、改善が継続していくことを実感できた。
- ⑦ 自施設の問題点の抽出と具体策の提示が行えた。
- ⑧ 危機管理的視点での思考が重要であることが提言できた。
- ⑨ サーベイランスの方法を掴み、実践することができた。
- ⑩ コンサルテーションを実践し、難しさを認識した。
- ⑪ 外部委託業者との契約状況把握と教育の必要性を認識した。
- ⑫ 多職種との協働の重要性を再認識した。
- ⑬ 自身の意見を通すためには、自己資質の向上と優良な人間関係の構築が重要であることを痛感した。

2-2. これからの自分への課題

- ① ICN としての資質の向上（知識・技術・人間性）

- ② 有効な人間関係の構築
- ③ 組織の再構築と役割の明確化
- ④ ICT 活動の充実
- ⑤ ICD との協働
感染発生時の迅速な分析と判断
- ⑥ 各マニュアルの読み込みと検討
- ⑦ ICC・ICT の年間計画作成と実践
- ⑧ リンクナース・全職員の教育
- ⑨ 各委員会・多職種との協働

2-3. 自施設実習に望むこと、改善すべきこと

- ① 自施設での活動状況の周知
- ② 業務時間内実習時間の確保

3. 感染制御実践看護学講座（6ヶ月研修）について

3-1. 良かったこと

- ① 最高峰の講師陣から学び、実践看護師としての仲間を作ることができた。
- ② 感染制御実践戦略の基本を学ぶことができた。
- ③ ICN としての活動の意義・方法を学ぶことができた。
- ④ 最新情報の必要性和収集方法を知ることができた。
- ⑤ 自身を高める継続した努力と人間関係構築の重要性を深く学ぶことができた。

3-2 今後の課題

- ① 自施設の特性を分析し、学びの中から自施設対応を構築する。
- ② 自己研鑽。
- ③ 講座の課題としては、全国に講座を周知し、実践看護師の今後の活動状況の報告。

3-3. 改善すべきこと

- ① 講義期間の設定。(月に1回集中制など)

010

1. 指定施設実習

1-1. 得られたこと

- ① 施設の取り組み、感染制御に携わるスタッフの実践活動を直接見学および指導を受けたことにより、感染制御に専従する自分の役割イメージ化につながった
- ② 他施設の構造、システムや教育体制などを自施設と比較、分析することにより、気付かなかった自施設の問題を明確化することができた
- ③ 1人の力ではなくチームの一員として役割を持って取り組むことの重要性、そのための役割意識を持って協力しあう人間関係の確立が大切であることを理解することができた

1-2. これからの自分への課題

- ① 感染制御に携わる担当師長として患者、看護師だけでなく医療従事者全員とその家族を感染から守るという役割意識のもと目標を持って取り組む
- ② 自施設の問題の改善に向けて情報の収集とデータの分析、改善策の提案を実行していく
- ③ 傾聴の姿勢と声かけ、アドバイス・指導など率先した行動を重ね、良好な人間関係の確立から協力支援体制を強化していく

1-3. 指定施設実習に望むこと、改善すべきこと

- ① 指定施設による温度差が生じないように実習項目内容、見学項目内容をチェックリスト形式で表示する
- ② 1週間では見学実習で終わってしまうため2週間以上の期間が必要である
- ③ ケースカンファレンスの参加もしくは発表の機会があると意見交換しやすい

2. 自施設実習

2-1. 得られたこと

- ① 出向指導にて問題視されていなかった問題が明確になった
- ② 出向指導やラウンド実施により感染対策室をはじめ ICT、関連部署が改善策について話し合う機会につながっている
- ③ 得られた情報から問題を見つけ解決していくためには、ラウンドやデータ分析は目的意識を持って実行することが大切である

2-2. これからの自分への課題

- ① ラウンド・サーベイランス・データなど常に情報を把握し問題点はないか分析する
- ② ラウンド介入にて、各部署が率先して改善に取り組めるように問題提起と改善の評価を行いモチベーションが持てるように働きかけていく
- ③ 計画性を持って取り組み評価していく

2-3. 自施設実習に望むこと、改善すべきこと

- ① 受講生の職位や所属部署によって感染制御に組織全体に介入していける場合と限られた介入となる場合があるので改善結果を求める介入については事前にテーマを課題として提示されていると行動しやすい
- ② 提出課題は自由な形でまとめて提出できることはメリットであるが課題に合った提出物となっているのか疑問でもある。提出物については形式のフォーマットがあるとよい
- ③ 実習の期間は講義が終了してから行えるとよい

3. 感染制御実践看護学講座（6ヶ月研修）について

3-1. 良かったこと

- ① 基本知識の習得と実習による応用の講義プログラムであったため基礎を学びつつ実習で自分が実践するための課題を見出すことができる
- ② 感染制御の権威ある講師の方々から講義を受けることができたこと、質問などがメールのやりとりなどで行えたこと
- ③ 実践で働く受講生達と知り合い、今後同じ道に向かって進んでいく仲間の輪ができたこと

3-2. 今後の課題

- ① 認定看護師のような有資格者ではないため、受講後の知識レベル維持や交流を定期的に行う必要がある
- ② 講座が継続される
- ③ 施設実習、自施設実習の内容をより明確にし、より自主的に取り組めるようなプログラムとする

3-3. 改善すべきこと

- ① 講義内容は総論から各論に続くよう、実習は講義後に行えるような時間割を工夫する

011

1. 指定施設実習

1-1. 得られたこと

- ① 組織横断的な人間関係の構築の重要性
- ② 継続的な教育
- ③ 委託業者との良好な関係
- 1-2. これからの自分への課題
 - ① 組織横断的な人間関係の構築
 - ② 継続的で病院全体での感染教育
 - ③ 委託業者との良好な人間関係
- 1-3. 指定施設実習に望むこと、改善すべきこと
 - ① 実習期間の改善（1週間以上）
 - ② 実習の時期（自施設実習との兼ね合いもあるが、後半が良い）
 - ③ 実習内容の明確化
- 2. 自施設実習
 - 2-1. 得られたこと
 - ① 自施設での感染対策の実際
 - ② 組織の重要性
 - ③ 自施設の感染対策のシステムができて上がっている事
 - 2-2. これからの自分への課題
 - ① 感染対策への自信
 - ② 継続的な感染・医療の学びを深める
 - ③ 組織横断的で良好な人間関係の構築
 - 2-3. 自施設実習に望むこと、改善すべきこと
 - ① 具体的な実習内容
 - ② 綿密な計画立案
 - ③ 委託業者への介入方法の検討
- 3. 感染制御実践看護学講座（6ヶ月研修）について
 - 3-1. 良かったこと
 - ① 一流の講師による講義内容と好意でのメルアドの提示は、今後の感染活動でのよりどころになると感じた。
 - ② リピート効果による知識の習得
 - ③ 電子媒体を用いたやり取り
 - 3-2. 今後の課題
 - ① 感染管理認定看護師の実際の活動状況
 - ② 特殊な場所での実践での感染対策について（例：手術室や中材に関わっていないと実際の状況が分かりにくいのではないか）
 - ③ 講習生の施設に他の講習生が見学に行き、その施設での感染対策状況を学ぶことで、自施設との比較ができるのではないか。
 - 3-3. 改善すべきこと
 - ① 講義プログラムの順序
（講師の都合もあると思うが、同じ系統の講義は、近い日程にして欲しい。内容も順序立てていただきたい）

- ② 課題内容の直前変更は、可能であればない方がよろしいのではないか
- ③ 講義が7限目までであることがあった。講師の都合もあると思われるが、平均的に組み立てていただけると良いかと。

012

1. 指定施設実習

1-1. 得られたこと

- ① 組織横断的に活動する ICN に必要な能力：調整能力・交渉力・コミュニケーション能力
 - ・質の高い感染管理活動を組織的に推進するには多彩な能力や高度な専門的知識が求められるが、組織横断的な活動するには多くの職種を束ねる調整能力・交渉力とコミュニケーション能力が必須である。
 - ・それぞれの仕事や立場を常に理解し尊敬を示す事で良い人間関係を築き感染活動が推進される。
- ② 感染制御に適した環境が維持されるのは、定期的環境ラウンドの継続
 - ・ラウンド結果は“出来ているところ”、“出来ていないところ”をデジカメ入りの報告書を用いて各部署にわかりやすく還元（前回の結果も必ず確認し改善の有無も評価）。
 - ・該当リンクナースが事前に自部署評価、またラウンドを補助しリンクナースの役割発揮が出来ている。
- ③ データ、資料、報告書などの情報を上手に整理整頓・IT 活用をする。
 - ・多くの感染関連のデータ、資料、報告書など必要な情報がすぐに入手・確認できるよう整理整頓することは感染管理業務を円滑にする。
 - ・情報収集や周知徹底するには現場での実践が確実な方法であるが、院内 LAN の有効活用と組み合わせることで双方の欠点を補うことが出来る。

1-2. これからの自分への課題

- ① ラウンドやサーベイランスを定期的にかつ継続させる。
 - ・実施していなかった環境ラウンドを定期的にかつ継続させる。
 - ・現場にある問題点を抽出明確化し、感染制御に適したし当院に則した環境作りを目指す。
 - ・サーベイランスの目的、方法、評価、フィードバックを委員会メンバーと再確認、理解したうえで当院に必要とするサーベイランスを推進する。
- ② 円滑な感染管理活動をするために自分の役割を再認識し、委員会メンバーや職員を巻き込んだ感染管理実践をする。
 - ・現場での活動を重視し、スタッフとの関わりやコミュニケーションを増やし人間関係作りをする。また、Dr とも積極的に関わるように心掛ける。
 - ・今後実施すべき多くの感染管理業務を出来る事からひとつ一つ手がけて積み上げていく。
 - ・視野を広げるために常に高いアンテナを張り、情報収集、選択、検討、活用する。

1-3. 指定施設実習に望むこと、改善すべきこと

- ① 自分の実習への準備不足と時間の有効活用が出来なかったことが反省点

2. 自施設実習

2-1. 得られたこと

- ① 環境ラウンドを実施し色々な部署の沢山の問題点を発見することが出来た。
 - ・数を重ねる毎にラウンドする範囲が徐々に広がり、また観察視点の変化が感じられた。
 - ・外来部門や看護部以外の介入しなかった部門の現状や問題点を把握ができた。
 - ・色々な部門の職員と接する中で多くの生の声を聞くこと機会を得た。
- ② 特定抗菌薬の適正使用についてのカンファレンスを持つ機会を得た。

- ・感染症か否か、特定抗菌薬の適正使用の有無等を検討する症例検討カンファレンスを開始することができた。薬剤師の出席率が高く意見交換の場となった。
 - ・届け出用紙（感染症報告書・特定抗菌薬使用届出）や感染情報レポート、JNIS の情報などのデータが繋がっていない。活用されていない。メンバーで検討が必要。
- ③ インターネットから情報を定期的にチェックすることを学ぶ
- ・最新情報をインターネットから得る事が出来る。多くの情報から選択し活用する能力が必要。
- ④ 毎週の自施設実習を実施することで週間計画の大まかな流れを作り出すことができた。実習が終了後も継続し、年間計画を組み合わすことで活動できる。
- ⑤ 大久保教授と認定看護師指導の自施設ラウンドはスタッフに良い刺激になり成果大。
- ・指摘事項についての科学的根拠に基づいた説明はスタッフの十分な理解を得た。
 - ・ラウンド時に院長、理事長をはじめとする Dr、Ns、コメディカルの参加と協力的な姿勢を知ることができた。私にとっての心強い仲間である。
- 2-2. これからの自分への課題
- ① 感染管理プログラムに沿って当院の感染管理システムの見直しと再構築。
- ・感染対策委員会組織の再構築（ICT、リンクナース位置付けと構成メンバーの変更）
 - ・実践現場の中心となるべきリンクナースの役割が不明確。役割モデルになるよう教育計画、日常的な活動体制を早急に整備する。
- ② 感染管理組織の軸となり病院全体に継続的に関わるための自分自身の組織における位置づけや役割を明確にする。長期、短期目標設定し計画を立案実施する。
- ・感染対策委員の意識改革し、組織の再構築を初めに体制を整える。
 - ・管理部門への支援体制を確立する。
 - ・安全管理室や安全衛生委員会と協働で組織横断的に活動する。
- 2-3. 自施設実習に望むこと、改善すべきこと
- ① ・自施設実習を開始し学ぶことが多かった。業務をしながらの研修は時間調整が難しかったが、非常に実践的な実習であると思う。
3. 感染制御実践看護学講座（6ヶ月研修）について
- 3-1. 良かったこと
- ① ・感染管理の8つプログラム全体を系統立てて認識しそれぞれの目的を理解することが出来た。それぞれのプログラムが“点”としてしか捉えられなかった。今は“線”として繋がった。（過去はラウンド、サーベイランスの実施が目的としてとらえていたが、今は感染制御のための手段として実施することが理解できた。）
- ② ・多くの講師の先生方や認定看護師の先生方の感染制御の実際は非常に参考になった。
- ③ ・自施設以外の感染対策の実態を知る機会が少なかった。色々な施設のリアルな悩みや問題を知り共有することが出来た事は何より心強かった。
- ④ ・同期の生徒さんや講師の先生方とのネットワークが出来た。
- ⑤ ・『コンサルテーション』という問題解決のプロセスを確認することができた。コンサルティ自身が問題解決するために援助、助言する姿勢とすることは感染制御だけでなく管理者でもある自分に不足していた部分と反省できた。
- 3-2 今後の課題
- ① ・今後、認定看護師のようなフォローアップ制度は？
- 3-3. 改善すべきこと

- ① ・講義される講師の先生のご都合で仕方がないと思いますが、講義内容が総論と各論が逆になる時があり、知識不足の自分には理解するのに時間がかかる時があった。

013

1. 指定施設実習

1-1. 得られたこと

- ① 指定施設実習ではその施設での実際の感染制御の方法を見ることが出来とても参考になりました。病院の規模や施設、システムなどのハード面では参考にはできない部分が多かったですが、現在自施設で行っていることに対する疑問を持つことができた。
- ② 実習記録を記入してからの実習だったので、自施設の問題点をある程度把握した状況での実習だったので、前半の方よりはやり易かったと思いました。
- ③ ICN が、ICT の中で、チームコーディネーターとして活躍していた。また、病院内の情報が自分に集まるような、パイプラインができていた。自施設での今後の活動に役立つものとなりました。

1-2. これからの自分への課題

- ① ICT の中で ICN として、各専門職が機能的に活動できるように、コーディネートする能力を身につけること。
- ② ラウンド後のフィードバックの方法を変更し、病棟スタッフが興味をひく内容に変更できるようにすること。
- ③ 現在、SSI サーベイランスしか行っておらず、実習で BSI を施行している。当院でのサーベイランスを強化し、ベースラインを明らかにしていく。

1-3. 指定施設実習に望むこと、改善すべきこと

- ① 実習日数が4日間と短かった。もう少し時間が確保できれば良かった。
- ② 指定施設のスケジュールを考慮したうえで時期をきめて頂きたかった。実習時間がさらに絞られてしまった。

2. 自施設実習

2-1. 得られたこと

- ① 毎週ラウンドし介入することで、改善されていきました。継続しラウンドすることの重要性を感じました。
- ② ICD 指導のサーベイランス実習では、感染症の判定や、感染経路の特定の方法を身に付ける機会となりました。
- ③ 実習記録にて自施設の問題が明らかになってからの実習だったので、改善すべき点が明確になり、アプローチし易くなった。今後はファシリティーマネージメントをより理解していく。

2-2. これからの自分への課題

- ① 挙げられた問題点を改善するため、組織ぐるみで改善するように働きかけていく。組織での自分の立場を明確にし、組織を理解する。
- ② 現在使用しているマニュアルを見直し、視認性のよい、見やすい物に改定していく。リンクナースや医師も改定に参加してもらい行っていく。
- ③ ICN 1年目として、成果が目で見えて評価できるように年間スケジュールをたて行動していく。また、それを、上司やスタッフにアピールできるようにしていく。

2-3. 自施設実習に望むこと、改善すべきこと

- ① 年末が入ってしまい、病院機能が低下した中では実習がしづらかった。ICD も休みに入ってしまうため、

時間がなく十分な実習が行えなかった。

- ② 自施設実習の報告会は実習が終了してからにしてほしかった。
- ③ 実習をやっている、これでいいのかと不安になりました。また、10週連続では夜勤などの勤務をしながらなので、休みにも出勤しなくてはならなく大変でした。中間報告や中間指導があれば、このような不安や迷いは軽減されたと思いました。(2クール制)

3. 感染制御実践看護学講座（6ヶ月研修）について

3-1. 良かったこと

- ① 講師の先生方が、親身になり相談に乗って下さいました。みなさん、メールアドレスを教えてくださいまして、対応も早く、とても助かりました。
- ② 講師の先生が一流の方々と、とても嬉しく、光栄に感じながら授業を受けることができました。
- ③ 色々な立場の受講生が参加しており、自分と同じ問題を抱えている人がいて、相談しやすく、問題解決に向けて行動できた。

3-2. 今後の課題

サーベイランスなど、やったことがないことに対する指導をして頂ければ良かったと思いました。やっ
ていて、正しいのか不安になります。

3-3. 改善すべきこと

- ① 6時限のカリキュラムは集中するのが困難でした。できれば、5時限までのカリキュラムにして頂きたかった。
- ② 予定変更が多く、混乱してしまう場面がありました。

014

1. 指定施設実習

1-1. 得られたこと

- ① ICNの役割と実際の活動
実際に活動している施設に伺い、1週間の業務や臨時に介入する姿を直に見て学ぶ事ができた。計画書やマニュアルなどの整備の仕方や実際の運用についても尋ねる事ができ、自施設で作製・運用する方法を具体的に考える事ができた。
- ② 自施設に必要なまたは不足している事が具体化した。
自施設との違いを知ることにより、現状で出来ていない事や取り入れたい事、実施すべき事などが明らかになった。ICT・ICCの活動そのものやシステムの整備なども含め、多くの改善事項が見えるようになった。
- ③ 構造と使い分け
感染症の患者が他の患者と交差することなく移動できる構造をみる事ができた。そのルートを通って見学し、運用方法などの説明を受ける事でより理解が深まった。施設のハード面を変更することは容易ではないが、現在の状況の中で交差感染を予防するルートについて考える機会となった。

1-2. これからの自分への課題

- ① 自施設に合わせたスタイルで導入・運用する。
実習の中で、導入したいと思ったシステムや情報収集の方法・形式があった。一つずつ自施設にとりいれる事が可能かを検討し、自施設にあわせたスタイルで作成、運用したいと考えている。
- ② 感染制御活動が機能しているか判断し、改善につなげる。
ラウンドを含めたICTの活動やリンクナースの教育、マニュアルの内容などを見直し、自施設での感染

制御活動が適切であるか、機能しているかを判断していく。また、指定施設での取り組みを参考に、改善策を考えたい。

③ 他職種との協働

ICN の他職種とのつながりの広さやコミュニケーションの巧みさを学ぶ事ができた。現在は看護部や医師、一部のコメディカルとの関わりしか取れていないため、ラウンドを通して関わりを深め、感染制御活動が施設全体で行えるようにしたい。

1-3. 指定施設実習に望むこと、改善すべきこと

① 5日間の実習を2回（自施設実習開始前と自施設実習5週目あたり）が希望。

1週間で、指定施設の状況やICNの活動を体験し、自施設で取り組める事や課題を持ちかえり自施設実習を開始する。自施設実習中に疑問に思うこと、確認したい事などが出てくる。2回目の実習では自施設での問題がさらに明確になった状態で、学びを得る事ができるのではないかと考える。

2. 自施設実習

2-1. 得られたこと

① 感染制御活動を実際に行うことの難しさ

各部署の活動状況やスタッフの理解度・感染制御への意識の高さなどを掴んだ上で、言葉・方法を選んで伝える事の難しさが解った。また、良い点・悪い点などを上手くフィードバックする事が重要であり、難しい事も学ぶ事ができた。

② 新たな活動を始めるには費用などを含めて総合的に考える必要がある。

新たなシステムや活動を始めるには、どの職種の協力が必要なのか、検査費をはじめとするコスト面を考えた計画が必要であることが学べた。また情報の伝達なども含め、様々な事を考えなければならない事を学んだ。

③ ラウンドと介入により少しずつでも改善する。

1～2週間隔でのラウンドを行い、ラウンド結果をフィードバックする事で各部署での感染対策・環境の改善が見られた。ファシリティなど予算を要するものは時間を要するが、部門で取り組める点に関しては介入により少しずつではあるが改善が着実に行える事がわかった。

2-2. これからの自分への課題

① 情報収集と整理。

検出菌情報、患者の状態など多くのデータから感染制御に必要な情報を適切に収集し、活用しやすいように整理することが課題である。それらの情報から問題と対策を考えて行く事が必要と考える。

② 施設内職員とのコミュニケーション

看護部や医師の中では感染制御活動を行っている事が広まってきている。しかし、その他の職種では感染制御活動の認知度が低い。多くの部署・スタッフとコミュニケーションをとり、ICNの役割・活動の理解を広めていこうと考えている。

③ ICNとして活動計画を立て、実行する。

ICTの年間活動計画と共に、ICNとしての活動を週間・月間・年間と計画立て、実施していく事が必要と考えている。

2-3. 自施設実習に望むこと、改善すべきこと

① 研修時間の確保

病棟勤務で夜勤や欠員などによる勤務調整もあり、勤務時間内での研修時間の確保が難しく、時間外での活動となることが多かった。自施設実習時間の確保については、研修生と所属部署・施設との調整ではあるが難しいのが現状であった。

② ICD 指導によるサーベイランス実習

ICD への相談は行えたが ICD 自身がサーベイランスの経験が少なく、計画書の段階で、他部門からの指摘により気付く点があるなど、開始前の時点で時間を要した。ICD がどのような点について指導するかなど、提示していただけたらと思う。

3. 感染制御実践看護学講座（6ヶ月研修）について

3-1. 良かったこと

① 多くの施設の方との情報交換。

各地の施設から専従・管理職・リンクスタッフなど様々な研修生がおり、それぞれの立場での感染制御活動の問題や悩みなどを話し合い、自施設にとりいれる策を考える事ができた。

② 講師に恵まれ、最新の知識を学ぶ事ができた。

著名な講師の講義を受ける事ができた。感染制御の歴史から最新情報、今後進んでいくであろう事柄など様々な話を聞き、学ぶことができた。

③ 実際の業務と知識の習得を並行して行える。

講座での学習を進めながら自施設で感染制御活動する事で、問題が見えるようになり、具体策を考え実施・評価する事を学ぶ事ができた。マニュアル内容の見直しや介入方法を考える中でエビデンスなどを調べるなど、実務を通しての学びを得る事ができた。

3-2 今後の課題

① 時間の確保と調整

研修生個人の働きかけ方もあるが、専任・専従でない状態で自施設実習を行うための時間の確保が課題である。また講義内容の整理や課題に取り組む時間が取れない事も多く、施設や当該部署との調整をどのように行っていくかが非常に重要と考える。

② 講義内容のすり合わせ

基本から学習ができたが、中にはかなりの部分で内容が重複している講義もあった。重複している内容は重要な点であると考えるが、切り口が異なっていると興味をもって聞く事ができると思う。

3-3. 改善すべきこと

① 集中講義の時間数

座学になれない事もあり、4限以上の講義は集中力・注意力の低下が著明であった。当日の学びの整理や振り返る時間の余裕がないまま1週間が過ぎてしまう事もあるため、可能ならば4限を限度に調整をお願いしたいと思った。

② 毎週の講義を土日に。

毎週土曜日の講義だったが、遠方から来る研修生の移動時間や費用の点から週2日で隔週にするなどが良いと感じた。

015

1. 指定施設実習

1-1. 得られたこと

① サーベイランスの実際、対象、方法、ワークシートの活用方法

② 多職種の連携による患者介入と ICT ラウンド

③ 手指衛生の環境と徹底

1-2. これからの自分への課題

① 対象サーベイランスの実施とフィードバック

- ② 多職種連携と積極的なコミュニケーション
- ③ 手指衛生に対する動機づけ
- 1-3. 指定施設実習に望むこと、改善すべきこと
 - ① 受動的ではなく主体的に臨んでいく姿勢
 - ② 目的を明確にしておく必要性
 - ③ 講義すべて終了後の指定施設実習
- 2. 自施設実習
 - 2-1. 得られたこと
 - ① サーベイランスの実践
 - ② ラウンドによる介入・現場指導の大切さ
 - ③ マニュアルの周知にはエビデンスの理解が必要
 - 2-2. これからの自分への課題
 - ① サーベイランスの継続
 - ② ラウンドによる積極的なコミュニケーション
 - ③ マニュアルを実践に繋げていく
 - 2-3. 自施設実習に望むこと、改善すべきこと
 - ① 大学院担当指導者のラウンドは改善の契機
 - ② スタッフ不足による実習時間確保の難しさ
 - ③ ICD との時間調整の難しさ
- 3. 感染制御実践看護学講座（6ヶ月研修）について
 - 3-1. 良かったこと
 - ① 感染制御に関する新しい情報、知識の獲得
 - ② 感染制御の仲間作り
 - ③ 学びを実践に生かす方策
 - 3-2. 今後の課題
 - ① 感染制御の学びを自施設で実践
 - ② 感染制御の仲間との交流
 - ③ 感染制御に関する新しい情報収集
 - 3-3. 改善すべきこと
 - ① 4月から9月までの開講
 - ② 課題に対するコメントの遅延
 - ③ 計画的な課題

016

- 1. 指定施設実習
 - 1-1. 得られたこと
 - ① 他職種と連携し、横断的な関わりをする。
 - ② ICTメンバーの意識を高めるためには、問題の共有と、メンバーひとりひとりに責任を持たせることも大切である。
 - ③ ラウンドの結果、サーベイランスの結果を効果的にフィードバックし改善につなげる。

- 1-2. これからの自分への課題
- ① ICTの活動を充実させていく。そのために、ICTメンバーとの連携を密にし、会議、ラウンド、勉強会を企画・運営していくことで情報の共有化とモチベーションアップに繋がられるようにする。
 - ② サーベイランスの目的、データの活用目的、現状の改善点を明確にし、サーベイランスを実施していく。また、サーベイランスの結果を効果的にフィードバックすることができるようにする。
- 1-3. 指定施設実習に望むこと、改善すべきこと
- ① A日程とB日程ではスケジュールに4週間の開きがあった。指定施設実習後に自施設実習が開始されるため、その間、焦りを感じた。できればあまり開きがないほうが良いのではないかと思った。
2. 自施設実習
- 2-1. 得られたこと
- ① 自分の施設で実習をし、問題意識を持ち病院を見ることで、自施設のことがよく見えていなかったことに気づいた。
 - ② 通常の業務では、当該部署と関係のあるところにしに行くことがなかったが、普段行くことがないところを訪室し現状を知ることができた。
 - ③ いろいろな場所を頻回に訪室することで、人脈を広げられることができた。
 - ④ ケア・バンドルによる介入実習をしたことで、マニュアルの再確認と実践状況を確認することができた。
- 2-2. これからの自分への課題
- ① 見ようとしなければ何も見えてこないことがわかったので、ひとつずつ問題意識を持って物事を見ていくようにする。
 - ② ラウンドでの指摘事項をその時は前向きに取り組んでくれるが、継続されないことが多いため、継続させるための努力をする。
 - ・必要なことは言い続ける。
 - ・物事を動かすためには誰に相談すればよいのか見極める。
 - 良好な人間関係を築く。
 - ③ マニュアルの見直しと改訂をする。
- 2-3. 自施設実習に望むこと、改善すべきこと
- ① 自施設実習中の時間の確保と、デスクワークをする場所の確保ができれば良いと思う。
3. 感染制御実践看護学講座（6ヶ月研修）について
- 3-1. 良かったこと
- ① 小林先生から自施設で直接指導を得ることができ、以前からICTとして問題提起していたことが組織的に動くようになった。
 - ② 実際の活動を報告し、それに対する具体的な指導をもらえる。
 - ③ 困っていることなどを相談すると諸先生がたからすぐアドバイスがもらえる。
 - ④ 同じ目的を持つ仲間ができ、情報の共有やいろいろな相談ができる。
- 3-2. 今後の課題
- ① 知識、技術を習得するための努力
 - ② 得られた知識や情報を周知させていくための工夫。
 - ③ 組織横断的に活動するための能力の向上。
- 3-3. 改善すべきこと

- ① 研修中、事務の方々にも大変お世話になったり、精神面でも支えていただいたりしています。できれば、研修終了するまで担当の方が変わらずにいてくれると心強いと思います。

017

1. 指定施設実習

1-1. 得られたこと

- ① ICT 組織の役割と活動の実際について
- ② サーベイランスの意義や必要性
- ③ 感染制御は患者様や病院スタッフを守るという意識が大切

1-2. これからの自分への課題

- ① 耐性菌サーベイランスラウンドのサーベイランスシートを作成する
- ② 環境ラウンドのチェックポイントを学び、週1回のラウンドを実践
- ③ 感染制御に対する職員・非職員への教育

1-3. 指定施設実習に望むこと、改善すべきこと

- ① ICD と ICN の関わり
- ② コンサルテーションの実際
- ③ デバイスサーベイランスの実際

2. 自施設実習

2-1. 得られたこと

- ① 耐性菌、主要菌サーベイランスの重要性、アウトブレイク時の対応
- ② 定期的な環境ラウンドの必要性
- ③ 抗菌薬の適正使用について

2-2. これからの自分への課題

- ① ICT のそれぞれの職種の役割を明確化する
- ② ICT による週1回の微生物サーベイランス・環境ラウンドの確立
- ③ 感染制御の教育（職員・非職員）
- ④ アウトブレイク時の対応

2-3. 自施設実習に望むこと、改善すべきこと

- ① 自施設実習の指定実習時間を1日3時間、時間内に確保してほしい
- ② できれば全額支給で講座を受けさせてほしい（新たな受講生が入学できるように）

3. 感染制御実践看護学講座（6ヶ月研修）について

3-1. 良かったこと

- ① 日本の感染制御のトップ走る先生方の講義を受けられたこと
- ② 全国の病院の感染制御に意欲を燃やす仲間に出会えたこと
- ③ 講師の先生方の直接指導や質問や悩みなどに対するメールでの迅速な対応

3-2. 今後の課題

- ① 自施設実習での課題が感染制御以外の通常業務を行っているものにとっては多かった
- ② eラーニングの教育体制もあるとよかった

3-3. 改善すべきこと

- ① 予定変更が多い
- ② 講義内容が充実している分、集中講義期間の6コマ目はつらかった

018

1. 指定施設実習

1-1. 得られたこと

- ① サーベイランス：実施する際には、プロセスを構築する。(関連部署に計画書を提出、情報収集、ケースの判定、SSI ケースレポート提出 (主治医による記載)、フィードバック (院内全体報告会 2 回) このことで制度の高いデータが得られ効果的なフィードバックができる方法を学びました。
- ② ICN が 2 名いる中での役割分担ができています。ICN と ICD とのコミュニケーションが取れていないと、ICN としての業務が増えてしまう。ICD が積極的に環境ラウンド参加して組織的な動きができて現場指導がされて改善につながっていました。
- ③ 感染マニュアルを参照させていただき、ICC、ICT チーム活動について、SSI チームの計画書、抗菌剤の使用期間等の内容が細かく記載されていたので、自施設の中でまだ出来ていない計画書や手順等を作成する際には参考にさせていただきたいと思いました。

1-2. これからの自分への課題

- ① サーベイランスを実施しているが、日々のデータ収集に終わってしまっている。今一度サーベイランスのプロセスを構築させてなぜサーベイランスを行う必要があるのかをみんなにわかってもらい協力が得られるようにしたい。
- ② ICT チームの活動を明文化して、今まで行っていない抗菌剤ラウンドを実施し、データは、薬剤師、細菌検査科技師等に協力を得て整理し病棟ナースに参加してもらい チームとして活動し整理していきたい。多剤耐性菌が少しでも減少できるように職員の手洗い状況をチェックしていきます。
- ③ 中央材料室。手術室で滅菌業務を滅菌方法、滅菌保証、日常管理等を、中央材料師長、滅菌技師と話し合いを持ちいま何ができて出来ていないかを話し合い、安全に滅菌物が供給できるようにしたい。

1-3. 指定施設実習に望むこと、改善すべきこと

- ① 自習期間が短いので、表面的の所でのオリエンテーション施設見学になってしまうので、実際のラウンド (耐性菌ラウンド前の ICN としての事前準備) 等を参考にしたかった。
- ② ファシリティマネジメントとして、院内での掃除道具の管理方法。空調等の管理の方法を現場でどのように活用しているか管理方法を知りたい。
- ③ 学内で使用している、ICT ラウンド用紙、ケアバンドル用紙を使用して指定実習病院で活用してどうなのか知りたい。

2. 自施設実習

2-1. 得られたこと

- ① ICT チームメンバーに検査科技師はいるが、細菌検査室メンバーがチームメンバーにいなかった (必要性は十分に理解していたが院内の事情では入れなかった。) が今回メンバーに参加してもらうことが決まった。
- ② 院内の構造上で改善できない (階段の R による建築・流しの蛇口がスワン型、トイレ便器の設計として床に配置しない) ところは、今後病院の中で改善することがあった時に参考して行く。
- ③ 水回り周囲のカビ対策、特にエレベションバスに使用しているマットを立てかけて乾燥させているが、実際、中まで乾燥しないことの指導を受け、新規に予備を購入することでカビ対策に改善できました。
- ④ 中央材料室の中では、滅菌室の入口に、エアシャワーを活用していたので、現在は不要なものである

ことの指導を受け電気等の節約に還元できた。

2-2. これからの自分への課題

- ① 検査室のデータベースより毎日耐性菌野検出状況を確認して、実際に病室を訪問する確認する。
- ② SSI・BSI サーベイランスを実際に行い、現場に役立つ物としてフィードバックしていく。
- ③ リンクナース、各部署での感染対策に必要な教育プログラムの構築

2-3. 自施設実習に望むこと、改善すべきこと

- ① 一人では感染対策の計画、教育実施、評価はできないので、ICT チームとして活動ができるようにメンバーにも実施できる時間が欲しい。
- ② 感染は、改善することに対してお金が必要、例えばディスポ手袋を変更するにも質が良いものを選びたいが、金銭的なもので選ばれると安全性に欠けてしまうので必要性を十分に説明して改善していきたい。
- ③ 電子カルテで感染管理システムを導入する計画が立っているので、検査、薬剤、病棟マップ、サーベイランス等に活用でき ICT チームの活動に役立てられる物を採用してほしい。

3. 感染制御実践看護学講座（6ヶ月研修）について

3-1. 良かったこと

- ① 病院を建てたときは、必要とされていた紫外線、滅菌ルームの入口でエアシャワー等は、機能評価では指導されなかったことなので、研修中の講師の自施設訪問で指導を受けたことは改善につながった。
- ② 感染で名高い講師の授業を受けることができ、現実味のある講義で合った。もしよければ、自施設の医師に感染に興味を持ってもらうためにどのようにしたらよいかのアドバイスもほしかった。
- ③ 講義では、得られない指定病院自習を受けたことで、現場で働きながら講義を受講しているので、認定看護学校とは違い、即実施、改善につなげられる。

3-2 今後の課題

- ① 費用対効果：投資（材料費や人件費などの金、時間、労力等）して得られる利益（感染予防、コスト削減、労働安全、患者満足等）実際の例をあげて詳しく説明がほしい。
- ② 臨地実習の開始日を、ある程度講義を終わってからしてほしい（2か月終了後、A日程とB日程の期間を今回5週間あいているので間隔をあけるのであれば1～2週間程度にして実習生同士の話ができるくらいの期間にしてほしい。
- ③ 今回自習計画書を黒須先生に説明を受け、B日程チームはよかったが、A日程チームはわからず指定自習に参加したので用紙の活用方法を理解したうえで自習を受けた方が実習に行っても修正ができたと思いました。

3-3. 改善すべきこと

- ① 講義が1日7コマあると、頭が働かないし、受講するのが精いっぱいになってしまうので、せめて日に5コマまでにしてほしい。
- ② 104号室、夏場は蚊がいるので、虫よけ対策をお願いします。
- ③ 104号室マイクを2本活用できるようにしてほしい。（1本質問用、講師用）

019

1. 指定施設実習

1-1. 得られたこと

- ① ICNが実践する業務の内容が理解でき、ICNの立ち位置が把握できた。
- ② 業務遂行にあたって、事務を含めた関係各部署とのコミュニケーションの重要性が理解できた。
- ③ 完成度の高い組織を見ることによって、自施設の課題と目標を認識することができた。

- 1-2. これからの自分への課題
- ① ICNの業務を円滑に行うため、病院内での認知度を上げていく必要があると考えられる。
 - ② 清掃業者や中央滅菌室スタッフなど外注業者との契約内容の把握と事務内での外注業者との契約決定部署を把握する必要がある。
 - ③ マニュアルを活用性の高いものへ改訂する必要がある。
- 1-3. 指定施設実習に望むこと、改善すべきこと
- ① 指定施設実習よりも自施設実習を先に始めていても良かったように思います。
2. 自施設実習
- 2-1. 得られたこと
- ① 実習ラウンドを行ったことによって、病院内で感染を実践している人物として認知されてきたこと。
 - ② 当院の課題（部署毎によって統一されていない感染対策が多々あること）が把握できたこと。
 - ③ リンクナースとしてはかかわることのなかった外来や検査部門とコミュニケーションを取る機会が得られ、それらの部署のリスク管理が非常に希薄であることを知ることができたこと。
- 2-2. これからの自分への課題
- ① 病院内で感染対策ナースとして信頼を得ること。
 - ② 統一されていない対策のマニュアルを作成していくこと。
 - ③ 耐性菌情報や感染症情報を外来や検査部門と共有する方法を模索し、実践していくこと。
- 2-3. 自施設実習に望むこと、改善すべきこと
- ① 正直実習は手探り状態で、何をしたら良いのか不明な部分が多かったですが、3週目あたりで軌道に乗ってきました。その頃に指定施設実習があるとより具体的な目的意識を持って実習に望むことができたと考えます。
 - ② 実習のスケジュールは改善すべき点があるかと思います。月～金で実習を行い、土曜日に講義がありますと講座を出張扱いで参加している受講生は6勤1休となってしまいます。病院によってはこのような勤務体系ですと問題となり、休むことを強要される場合もありますので、実習スケジュールにももう少し幅を持たせて頂けると幸いです。例えば、15週間くらいの期間から10週間（5日間を10セット）分の実習カリキュラムを受講生側が指定できるようなシステムだとより良いように思いました。休職もしくは退職せずに受講できる講座ですので、多少は幅があると受講しやすいように思います。
3. 感染制御実践看護学講座（6ヶ月研修）について
- 3-1. 良かったこと
- ① 非常に著名な講師陣の講義を聞くことができ、知識の整理ができたことや新たな情報を入手することができたこと。
 - ② インターネットの活用法（これまで知らなかったサイトを知ることができた）など最新情報を入手する方法を学ぶことができたこと。
 - ③ 感染制御を志す仲間と接する機会が得られたこと。
- 3-2. 今後の課題
- ① 机上の学問（講義）は受けてきたが、実践したことがないこと。
 - ② コミュニケーションやコンサルテーションは病院に根付いていること（病院の中で認知されていること）が重要なことがあり、今後信頼を得ていく必要がある。
- 3-3. 改善すべきこと
- ① 調整が困難とは思いますが、滅菌の講義などは「その他の滅菌方法」

から講義がはじまり、そこから基本的な手法（高圧蒸気滅菌）へ戻っていくので、基礎から応用へ講義した方が解りやすかったように思います。

- ② 講義日程が突然変更になることが多かったように思います。
- ③ 業者の方が講義する授業が2〜3 あったと思うのですが、90分は講義陣の方々も苦しそうでした。2人で90分くらいが良いように思いました。

(成果)

- 病院内で感染対策に係わる人物として認知されるようになった。
- 病棟ラウンドを繰り返しているうちにコンサルテーションを受けるようになった。
- 感染対策の勉強会や申し送り時の手指衛生徹底の声掛けを行うことによって、速乾性手指消毒薬と PPE の消費量が増加した（介入病棟のみ）。
- 内視鏡室の内視鏡よりブドウ糖非発酵グラム陰性桿菌が検出されたことから、内視鏡保管庫の保護シートの交換頻度を月に1度から2週間に1度へ変更した（床面の保護シートは毎日交換することへ変更）。
- 消毒薬の勉強会を実施し、消毒薬適正使用（環境清掃へのアルコール噴霧など）への理解を深めた（介入病棟のみ）。
- 次亜塩素酸ナトリウムの浸漬消毒槽を蓋つきのものに変更した。
- 生理機能検査室（呼吸機能検査）に用いる蛇管を消毒するように変更した。
- 透析室の床に直接放置してあった針捨てボックスを籠の中に入れるよう変更した。
- 脳外科病棟における UTI サーベイランスを実施した。
- 耐性菌情報の週報の様式を変更することとなった。
- 感染症（耐性菌保菌を含む）情報を検査部門が把握できるような取り組みを行い、病棟のナースステーション内に感染症マップを表示することとなった。
- 緊急入院患者が結核と判明した際、患者転院に対して迅速な対応が出来たこと。

(課題)

- ラウンドにより眼科外来、泌尿器科外来の診察室に手袋が設置されていないことを発見したが、ICTで相談したところ、どの医師に伝えるかが難しいため、時機を見て助言していくこととなり、改善されていないこと。
- 内視鏡室の環境調査を実施し、菌の検出が認められたことから改善策を施行したが、確認の環境調査をかなりの手間がかかるとの理由から検査技師が難色を示し、実施時期のめどが立っていないこと。
- サーベイランスのフィードバックをどのように行っていくかが未定なこと。
- 耐性菌週報の様式を変更することは決定したが、具体的な書式は未定なこと。
- マニュアルが現場で活用されておらず、実用性の高いものへの改訂が必要なこと。
- 感染症（耐性菌保菌を含む）情報の検査部門との情報の共有化を図るためナースステーションに感染症マップを表示したが、検査室へ直接行く患者に対する対策は未定なこと。
- 事務部門とは実習する機会がなく、外注業者との契約内容や予算との兼ね合いなどは今後情報収集していく必要があること。
- 結核患者が判明した際の濃厚接触者に対する規定が決まっていないこと。

(希望)

- 実習内容としては介入し、改善することが妥当と思える内容の出来事があっても、改善困難なケースが存在します。このため、先生のコメント通りに実践できないケースがあることをご了承頂きたく思います（以下に具体例を示す）。
 - ① 理論的に間違っていることが明らかであっても、病院の構造上変更が難しい時
 - ② 部門責任者が感染対策に興味がなく、現行のシステム変更で難色を示している時

③ システム変更にあたって現任者と意見が一致しない時 など

- 提出課題が週に6つあるため、その週の実習実施内容に偏りが生じた場合は、提出課題の内容に軽重ができてしまうことがあり、内容の薄い課題が含まれてしまうことがあります。
- 私的には、指定施設実習は自施設実習の途中に入っていた方が良かったように思います（あくまでも結果論の感想です）。
- 自施設実習の期間に幅があると非常に助かったと思います。記載事項の用紙にも書きましたが、月～金で実習を行い、土曜日に講義がありますと講座を出張扱いで参加している受講生は6勤1休となってしまいます。病院によってはこのような勤務体系ですと問題となり、休むことを強要される場合もあります。また、本コースの受講生には現在1スタッフとして勤務している者も多数おりますので、病棟で他のスタッフが入院などした場合（こうした場合は通常他のスタッフが勤務につくなどして対処します）、勤務交代することができず、病棟内の雰囲気が悪化させる要因となることもございます。不測の事態に対処できる猶予があれば、非常に受講しやすくなるのではないかと考えます。